



THE MUSHROOM KINGDOM SAGA

きのこの国の
桃姫様
PRINCESS PEEECH'S EROS' DIARY

使用上の注意

本作品の全部または一部を
無断でインターネット上で公開する事は
法律により禁止されております。
作品の改変、ダウンロードアドレスの
公表も同様に禁止されております。
罰せられる場合がありますのでお控えください。

また違法にアップロードされたものを
ダウンロードすることも法律で禁止されて
おります。
ご注意ください。

つじもが町に殺ってきた





目次

強姦逆転編 006p

褐色輪姦編 071p

調教淫乱編 115p

あとがき 206p





強姦逆転編



ここから遠く、離れた場所のお話……

あるところにきのこの国がありました。

沢山の属国を治める偉大な国でした。

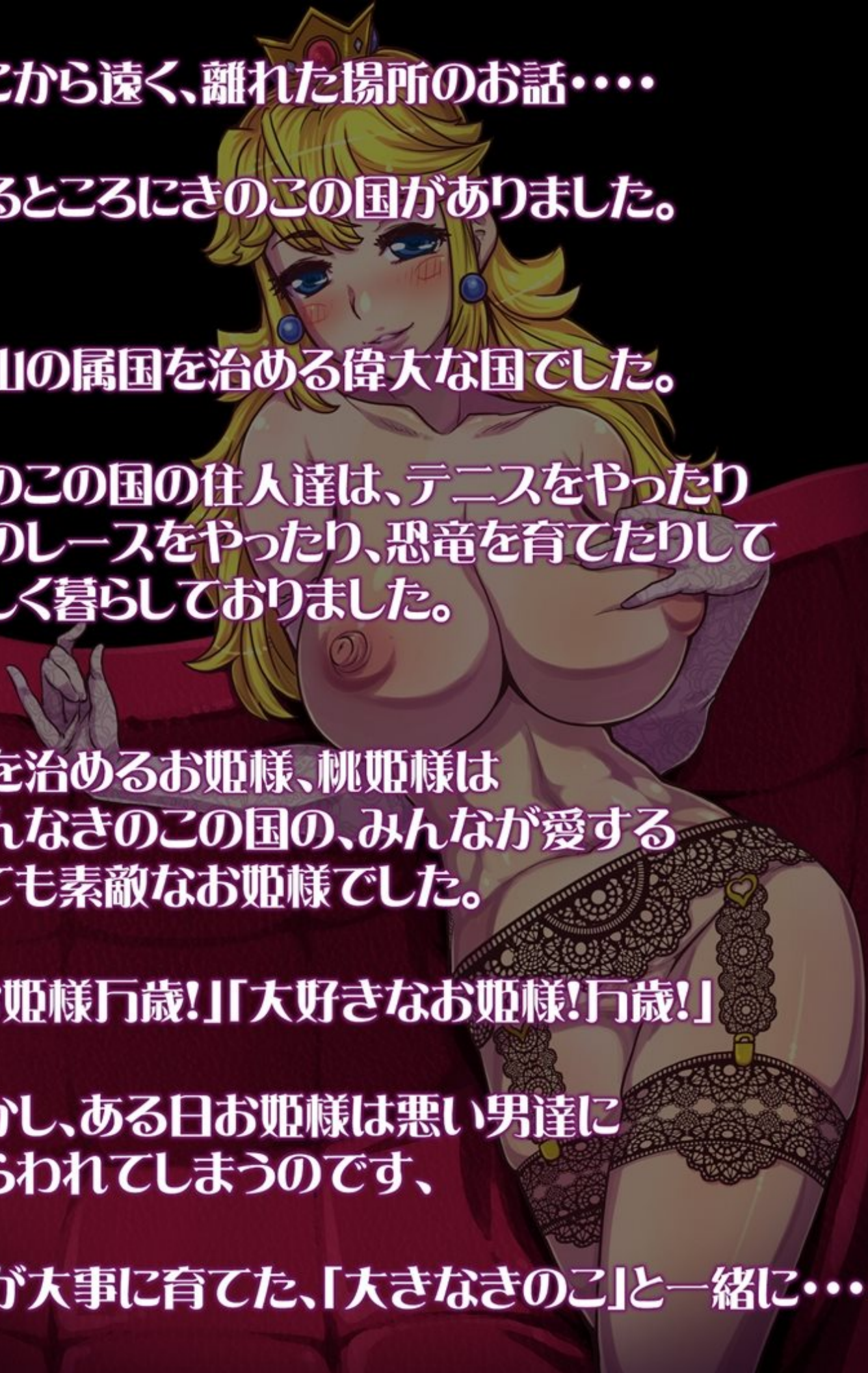
きのこの国の住人達は、テニスをやったり
車のレースをやったり、恐竜を育てたりして
楽しく暮らしておりました。

国を治めるお姫様、桃姫様は
そんなきのこの国の、みんなが愛する
とても素敵なお姫様でした。

「お姫様万歳!」「大好きなお姫様!万歳!」

しかし、ある日お姫様は悪い男達に
さらわれてしまうのです、

姫が大事に育てた、「大きなきのこ」と一緒に……





姫が気がつくと、そこは山奥の古い砦後でした。

「お目覚めかな、姫え〜!

俺は伝説の秘法と言われているスーパーきのこを食べて
国をのっとりうと思っているのだ」

姫のぼんやりした頭はスーパーきのこの名を聞いて
一気に目が覚めました。

スーパーきのことは、かつて姫を救う為に出兵した男を
強靱な肉体に変えたという、王国秘伝のきのこのことでした。

「あれを・・・私が育てたあのスーパーきのこを越える
より美味しく食べやすいスーパーエリンギを、
食べたというのですか!」

「おうよ!力がみなぎるぞ!

お前を犯し、我が妻にしてやる!国を蹂躪するのは、
お前のなまめかしいカラダで楽しんでからだ!ぐへへへへ」





みてみるお
おめえのカラダに
はいりたくってたまらねえって
俺のジュニアが暴れてるぜえ

うそっ！うそでしょ！
いやッ！いやいやあ！
だめよだめよお～！

あれを食べたの・・・？
スーパーきのこを越える
スーパーエリンギを・・・
だめえええ！

ああ食ったぜえ
おかげで伝説の救世主と
同じ力を手に入れたみてえだ

もう滾って滾って
たまんねえぜ～！

じゃあブツこんでやるか
おらよお！！



オラァ！
ああ～たまんねえ～
ヒメマンコの濃厚な肉厚感！
上質な膣壁の感触！
マンキツだあ！

あっ……ああ～
は、はいってくる……
きたないちんぽがあ……

クウ～！
たまんねえなあ
かなり使い込んでる
マンコみてえだなあ
しゃぶりついてきやがる！

くわえ込むの好きな
 Hentai 姫だったとはな！

ビュクビュクして
マンコが喜んでやがる！
好きモンのカラダだあ
ぐへへへえ～！！

ああっ！そんなっ！
そんなこと……ッ！いやっ！
ああ……深く……
はいってくるう……ッ！











おか・・・おかされたあ・・・
ああ・・・ナカで・・・
いっぱい・・・ああ・・・

あひっ・・・
あひい・・・
ああ・・・あひ

ああ・・・
すげえ～
膣からあふれ出てるぜ

完全に俺の子だねが
姫膣を占拠したなあ

これでおめえは俺のオンナだあ
これから何回も犯してやるからな

おいおい、レイプ中出しで
うっとりしてるじゃねえか！

とんでもねえメスブタ姫だな
しっかり調教してやんねーとなあ



スーパーエリンギの力で性欲ゲージは満タンです。
男は姫に中出した程度では、まったくおさまりません。

「ケツをあげるい! 動物のようにおかしてやるう!
フビフビ声を上げて、ないてみるおい!」

「あひい!あひあひあひい!」

犯されながら、姫ははしたない悲鳴をあげました。
そうです、レイプされているのに、姫は感じまくって
しまったのです。

「あくっ!あくう!いくっ!クリッ!クリいじらせてええ!」

「むふうう!そんなに俺様のポッキノコがいいかあ!」

男はすっかり気をよくして姫の手枷をはずしました。

「クリリスをいじりながらイケえい!」

「ひぐうう!」











「いやぁ!もっとお!もっとおちんぽ汁だしてえ」

姫は射精したばかりのペニスを掴み、
ぐいぐいと扱きはじめました。

「おほお! そんなに俺様のどチンポがよかったのかぁ〜?」

スーパーエリンギを食べた男のペニスはムキムキと強張り、
姫はすっかりそのかたさと大きさに夢中になっています。

「いいのっ!おちんぽが射精するッ!びくびくっていうのお!
きてっ!きてッ!キテえ〜!」

高級シルクの手袋に精液をまとわりつかせ、
艶かしい指先が男のペニスをやさしく、強く締め上げます。

「おっ!おお!おふううう!いいぞ!イイ〜ッ!
スーパーエリンギのカッ!たぎるう!たぎるぞお!」

男は姫の指裁きにうっとりして腰をビクビクと震わせました。

イヤッ！だめえ！
もっとお！もっとおかしてっ！
精液い！きてえ！
ちんぽビュクビュクしてえ！

もっとおちんぽで
びゆくびゆくしたいの！
はやく！あああ！スゴイッ！

なんだあ～
足りねえのかこのビッチ！
このメスブタ姫が！

しごけ！お望みどおり
射精してやる！

オッ！オウ！

あはあああ！
すごい！ボッキおさまらない！
もうすぐでちゃうう！
いって！ほらっほらッ！
だして！精液だして！
ちんぽびゆくびゆくさせてイッてえ！

ゼッ
ゼッ

ゼッ
ゼッ

あー
出
お







らったまらねええ〜！
サイコウだぜ、おめえはよお・・・

ああ・・・でたあ・・・
すごいビクンビクンしてえ・・・
ヘンタイ汁がどっぴゅりい・・・

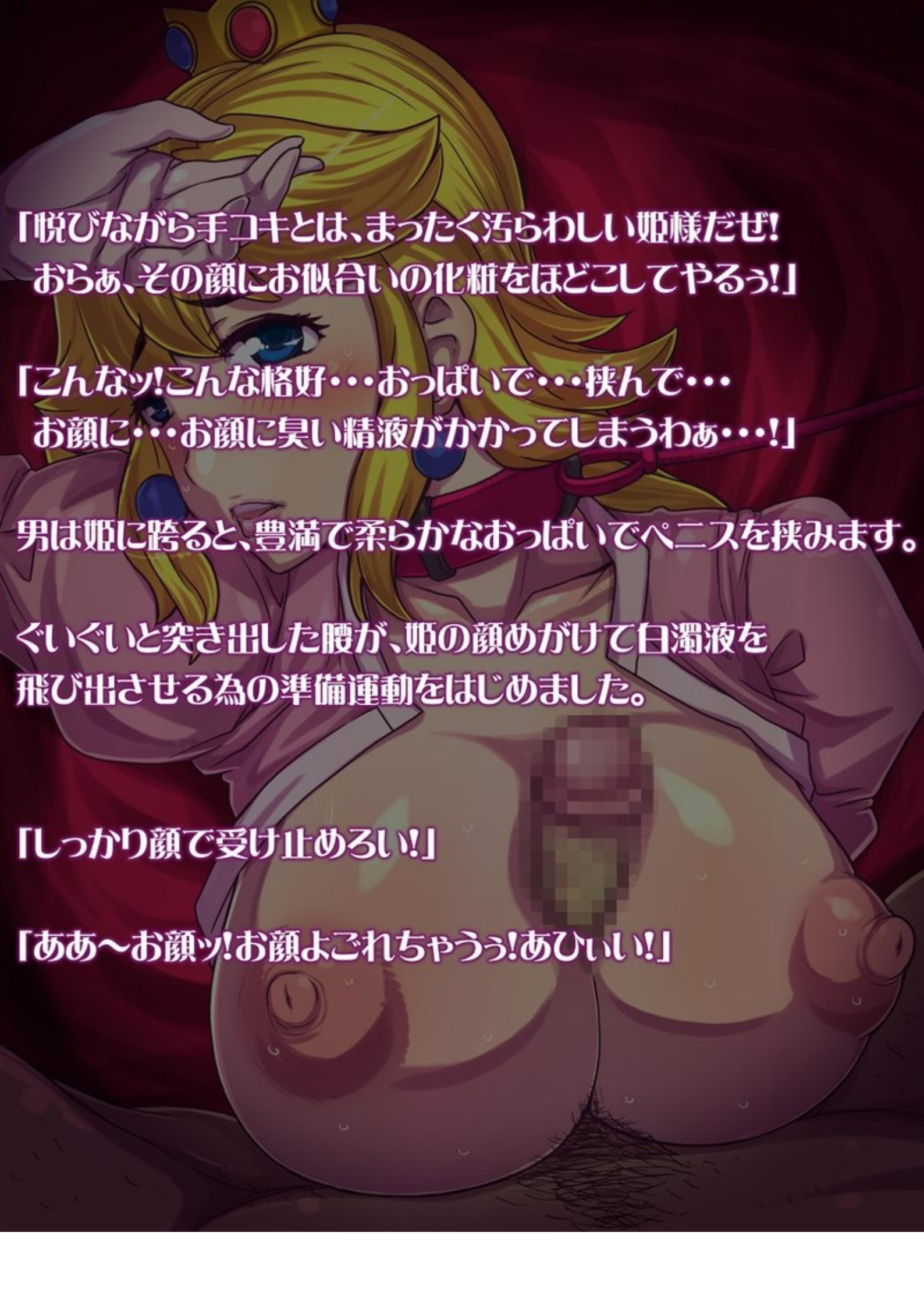
こいつあ楽しめそうなオンナだぜ
メスブタ姫がアへ豚になるまで
ドロドロにおかしてやるッ！

ああ〜だめえ・・・
これ以上されたらあ・・・

こわれちゃうう・・・
だめえ〜・・・

あっはあ！





「悦びながら手コキとは、まったく汚らしい姫様だぜ!
おらぁ、その顔にお似合いの化粧をほどこしてやるっ!!」

「こんなッ!こんな格好…おっぱいで…挟んで…
お顔に…お顔に臭い精液がかかってしまうわぁ…!!」

男は姫に跨ると、豊満で柔らかなおっぱいでペニスを挟みます。

ぐいぐいと突き出した腰が、姫の顔めがけて白濁液を
飛び出させる為の準備運動をはじめました。

「しっかり顔で受け止めろい!!」

「ああ〜お顔ッ!お顔よこれちゃうっ!あひいい!!」







顔オヤシム!

ジュウジュウ

ゴクゴク

ジュウジュウ

ジュウジュウ

ジュウジュウ

ジュウジュウ

ジュウジュウ

ジュウジュウ

ジュウジュウ

ジュウジュウ

ジュウジュウ

ジュウジュウ

ジュウジュウ

ジュウジュウ

ジュウジュウ



はあッ！はあッ！
おらあ・・・顔お！
顔にぶっかけてやってぜ
うれしいかあ？

ビッチメスブタには
お似合いの化粧だあ！

あーっ
あーっ
あーっ

ああ・・・私の顔・・・
清楚で綺麗なお顔に・・・
汚らしい精液が・・・
あっああ・・・あはあ

臭くてドロついて・・・
お顔に染み込んでくるみたい
やだ・・・くさい・・・
ああ・・・
お顔おかされてるう

パイオツビクビク
させて、
そんなに嬉しいか？
もっと犯して
やるからなあ！

ぐっ
ぐっ
ぐっ

ぐっ
ぐっ

ぐっ
ぐっ

ぐっ
ぐっ

ぐっ
ぐっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ





夜通し犯されて、何度も姫膣に射精をされて、
姫はすっかり男の性の奴隷に成り果てていました。

「もっとお!もっとおかしてくださいませ…
姫の膣をあふれさせて…おっきいおちんぽで!
狂ったオチンポでえ!いくいくうううう!」

「はあはあ!まて、まて…あああやばいッ
あああ〜!でるでるうう!」

膣の中でドクドクと射精しながら、
それでも腰の動きが止まりません。

乱暴に突き出す腰の動きに耐えられず、
ペニスは膣を飛び出しました。

そして、気がつけば男のペニスは姫の膣に入らないくらい肥大し
蛇口が壊れた水道のように、すぐに精液を吐き出してしま
肉蟲のようになってしまっていました。



ああ！もっと！もっとおかして！
腰らんぼうにい！乱暴にふって！
こわれるう！おまんここわれるくらいッ！
らんぼうにおかしてえ！
あっ！あっ！あひいい！

うおおう！すげえ！
とまらねえ～！やべえよお
ちんぽとけるう！
いっちまうううう！

だしてえ！
姫マンコでしぼられて
精液ぶちまけて！
いっぱいかけてえ！
精液ッ！精液くるっ！
いくいくいくいくううう！！







シューッ

シューッ

シューッ

シューッ

シューッ

シューッ

シューッ

おっぱい

おまんこ

おっぱい

おまんこ

おまんこ

おっぱい

おっぱい





おまんこ

ああんツ すうっごい・・・
こんなにトバしてえ・・・
気持ちよすぎておちんちん
とけるう！とか言ってたあ？
あはあ・・・姫マンコに
中出ししてくれないのお？

ハアツ！ハアツ！
なんだ・・・
やべえ・・・
ちんぽぶっこわれるう
イキすぎてえ・・・
ああ・・・

おまんこ

おまんこ

やべえよお・・・
きもちよすぎてとまんえ・・・
おさまんねえ・・・
ああ！ちんぽが言うこときかねえ・・・
アツ！あっ！ああ！アぐアツ！

おまんこ

おまんこ



「どどどうなってんだ!とまんねえよお!精液とまんねえ!」

「もっとお!もっろお…んくっちゅばっじゅるるるう」

はしたなくも姫はペニスをほおぼり、精液をすすり始めました。艶かしく動く舌は甘い蜜を舐めとろうとするかのように執拗に、ねちっこくペニスの先端を舐めまわします。

「おむっ!じゅぶっちゅぶちゅぶっ…じゅるううるう!」

大きく膨れ上がったペニスは、姫の口の中でさらに大きく膨れ、どんどん肥大していきました。





おむう！
んぶっぶっ
じゅぶぶびぶ！
あぶうう！

んぐんぐん

んぐんぐん

んぐんぐん

んぐんぐん

んぐんぐん







「ほらほらもっと出さない!

ガマンなんてもう出来ないんだからあ」

「あああ〜! 姫え! いぐう! あああ! あひいいい!!」

射精すればするほど肥大していくペニス。

男は狂おしいほどの快感に耐え切れず、ただただひたすらに
射精の快感に打ちひしがれているようでした。

「もうすこしよ…ほらっ! ほらっ! んむうう! ちゅばあ」

射精する度に男の意識は薄れ、快感だけが男の意識に残ります。
そしてそのたびに肥大していくペニス。

まるで男はペニスにすべてを支配され始めているようでした。

そして、それはつまり

間接的にはペニスに快楽を与える姫に支配されていました。









ウフフフ・・・
かなり肥大しちゃったわね・・・
異常だと思わない？
こんなに大きくなっちゃって

もっと大きくなるわよ
出せば出すほど・・・

もうガマンなんて無理
あとは壊れて
いきまくるだけえ

はあ！はあ！
あああ～！！もうもう
だめえ・・・
とまんねええ・・・
あああ～いぐいぐうう
やべえよおおお
ちんぽがあああ
ああああ！



さあ・・・
もうすぐよ・・・
もう考えるのやめて、
おちんぽのことだけに
なっちゃいなさい・・・ウフフフ



もうすぐ
完成するわよ・・・
あなたは昔我が国を救った
男の食べたスーパーキノコを
自分も食べたと思ってる
みたいだけど

あなたが食べたのは
その逆、キノコになる
キノコなの・・・

た、たすけてくれえ・・・
ああきえるう・・・
キルウ イウ アヒツ

ウフフ！ほうら、
最後の射精が来るわ・・・

余計なものをすべて吐き出して、
あなたがキノコになる番よ・・・



あっはあ
でるでるでるううう！
すっごおい！
最後の射精、
すごいっ！
すごいいい！

私の国は初め
肉体を強靱にする
キノコの研究を
していたけど

最近では兵を強力にするより、
強力な兵を作る方が
効果的だと判断したの

アヒ・・・
ヒイ・・・
イヨウ・・・
イクウ・・・

スーパーキノコに
順応できる兵を量産する

キノコ兵の自動生成研究が成功して、
今や伝説の男はいくらでも
無限増殖が出来るのよ

イッチャウウ
アクウ
アヒッ





一人の男のクローンが
キノコを媒体にして
無限に生み出せる

それが我が国
最強の軍事力の
ヒミツなのよ・・・

イクッ イクッ
アア・・・

ウフフフ、
ちよっときいてるう？
あなたのおちんぽ、
すごいよかったわあ

あなたの中から
不必要なものは
全部射精で
ヌキだしてあげたから

安心して
おなりなさい・・・



A woman with long blonde hair, wearing a crown and a purple top, is embracing a man's chest. The man's chest is visible, showing a large, muscular physique. The background is dark with a patterned texture.

男はいつしか、大きなキノコになってしまっていました。

美味しい味で楽しませてくれるキノコ、
幻覚をみせて夢見心地にさせてくれるキノコ、
強力な力を与えてくれるキノコ、
強力な毒で生物を死に至らしめるキノコ、

そして人をキノコに変えてしまう恐ろしいキノコ…

姫が大事に育てたスーパーエリンギは
そんな恐ろしいキノコだったのです。

「無垢な可愛いキノコ…いつか私の兵として、
私のために戦う日が来るまで…ゆっくりお休みなさい…」

姫は大きなキノコを優しく優しく、
愛おしい恋人のように、

抱きしめてあげましたとさ。

私の可愛い、
キノコに.....ね.....?

ウフフフ!!

